

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 5 部門第 2 区分
【発行日】令和 5 年 11 月 10 日(2023.11.10)

【公開番号】特開 2022-149089(P2022-149089A)
【公開日】令和 4 年 10 月 6 日(2022.10.6)
【年通号数】公開公報(特許)2022-184
【出願番号】特願 2021-51069(P2021-51069)
【国際特許分類】

F 1 6 C 33/78(2006.01)

10

B 6 0 B 35/18(2006.01)

F 1 6 C 19/18(2006.01)

F 1 6 J 15/3232(2016.01)

F 1 6 J 15/3256(2016.01)

F 1 6 J 15/447(2006.01)

【F I】

F 1 6 C 33/78 Z

B 6 0 B 35/18 C

B 6 0 B 35/18 B

F 1 6 C 19/18

20

F 1 6 J 15/3232 2 0 1

F 1 6 J 15/3256

F 1 6 J 15/447

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 11 月 1 日(2023.11.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

30

【補正の内容】

【0043】

傾斜板部 35 は、内径側平板部 34 の径方向外側の端部から軸方向外側に向かうほど径方向外側に向かう方向に折れ曲がっている。すなわち、傾斜板部 35 は、円すい台状に構成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0061】

その後の組立手順については、従来のハブユニット軸受の組立手順と同様である。具体的には、例えば、外輪 2 の複列の外輪軌道 6 a、6 b の径方向内側に、転動体 4 a、4 b を、保持器 25 a、25 b により保持した状態で配置し、かつ、軸方向外側の端部にシールリング 28 を内嵌固定してから、外輪 2 を、ハブ輪 21 の周囲に配置する。その後、内輪 20 を、ハブ輪 21 の小径部 22 に外嵌し、かしめ部 23 を形成して、内輪 20 とハブ輪 21 とを結合固定してハブ 3 を構成する。最後に、外輪 2 の軸方向内側の端部内周面とハブ 3 の軸方向内側の端部外周面との間に、軸方向内側のシール装置 5 b を装着する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

50

【補正対象項目名】 0 0 6 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 6 8 】

[実施の形態の第 3 例]

図 4 は、本発明の実施の形態の第 3 例を示している。本例では、ハブ 3 a は、軸方向外側の内輪軌道 9 a の軸方向外側に隣接する軸方向外側の内輪肩部 1 6 の外周面に、円筒面部 1 5 a を有し、かつ、円筒面部 1 5 a の軸方向中間部に係合凹部 1 7 a を全周にわたって有する。係合凹部 1 7 a は、径方向内側に向かうほど軸方向に関する幅寸法が小さくなる台形の断面形状を有する。

10

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 7 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 7 0 】

スリング 2 7 b を構成する第 1 シール材 3 0 b は、スリング本体 2 9 の筒状部 3 2 の軸方向中間部内周面を全周にわたって覆っている。第 1 シール材 3 0 b は、径方向内側に向かうほど軸方向に関する幅寸法が小さくなる台形の断面形状を有し、径方向内側部分を、ハブ 3 a の係合凹部 1 7 a に係合させている。すなわち、本例では、第 1 シール材 3 0 b の径方向内側部分により、第 1 係合凸部 3 8 b を構成している。

20

30

40

50